

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

昼夜の気温差が大きく、施設栽培では結露がしやすいため、病害の発生に注意しましょう。

特に発生に注意

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等）

クビアカツヤカミキリ

- ・幼虫は、幹や枝から中華麺〜うどん状のフラス（木くず等の混合物）を出します。フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫しましょう。
- ・フラスが見られた樹は、ネットを巻き付けるなど成虫の拡散を防ぐ対策をとりましょう。ネットは高さ2m程度まで2重にしっかりと巻きましょう。なお、成虫がネットを食い破るのを防ぐため、ネットと樹皮が密着しないように、隙間を空けて巻きつけてください。

たまねぎ

べと病

- ・苗床・定植後に、作物残さなどから感染し、越年罹病株として来年1～2月に病徴を現し、周辺への伝染源になります。
- ・ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ダコニール1000、ランマンフロアブルを予防的に散布しましょう。

野菜類

シロイチモジヨトウ

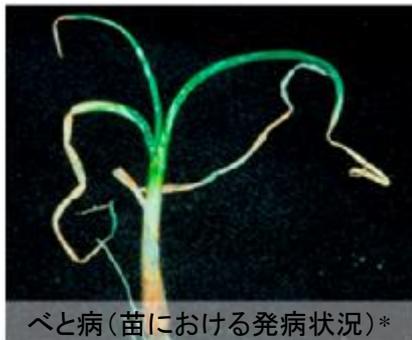
- ・ねぎでの発生が多いですが、豆類、なす科野菜、あぶらな科野菜、花き類など多くの作物を加害します。
- ・老齢幼虫になると薬剤の感受性は大幅に低下するので、中齢幼虫までに薬剤で防除することが重要です。

ハスモンヨトウ

- ・さといも、なす科野菜、あぶらな科野菜など多くの作物を加害します。
- ・発生を認めたら、ディアナSC（レタス、にんじん、しゅんぎく、ほうれんそうなど）、コテツフロアブル（レタス、さといも、ずいき、しゅんぎく、みつばなど）、プレバソフロアブル5（ピーマン、とうがらし類、レタス、ほうれんそうなど）、プレオフロアブル（にんじん、ごぼう、ほうれんそう、レタスなど）などを散布しましょう。



クビアカツヤカミキリのフラス



べと病(苗における発病状況)*



ハスモンヨトウ若齢幼虫※

次回の情報は11月末にお知らせします。

◎「病害虫防除グループホームページ」 <http://www.jpnp.ne.jp/osaka/>

◎「防除指針」 <http://www.jpnp.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

果樹

温州みかん

貯蔵病害



緑かび病

特徴

- ◆青かび病、緑かび病、軸腐病などがある。
- ◆青かび病や緑かび病は主に傷口から感染する。

防除のポイント

- ◆収穫時、果実に傷をつけないように注意する。
- ◆貯蔵時の庫内温度は5℃前後、湿度は80～90%にする。
- ◆収穫前に**トップジンM水和剤**(軸腐病、青かび病、緑かび病)や**ベフラン液剤25**(青かび病、緑かび病)などを散布する。
- ◆果実が濡れている時は収穫しない。貯蔵を始める前に果皮を乾燥させる(予措)ことで貯蔵後の腐敗が少なくなる。

バラ科果樹(もも、うめ、すもも等)

クビアカツヤカミキリ

クビアカツヤカミキリの特徴および防除方法については、下記リンク先の5月13日発表の防除情報「クビアカツヤカミキリに注意！」をご確認ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/R2nd/boujyoyouhou/R0205kubiaka.pdf>

野菜

トマト・ミニトマト(施設栽培)

コナジラミ類



トマト黄化葉巻病発症株

特徴

- ◆吸汁による白化のほか、トマトではTYLCV(トマト黄化葉巻ウイルス)を伝搬し、致命的な被害をもたらすこともある。

防除のポイント

- ◆トマト黄化葉巻病は定植後の早い時期に感染すると収量への影響が大きいため、株ごと除去する以外に対策がないので、コナジラミ類の防除を徹底する。
- ◆施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- ◆ほ場周辺の雑草、特に野生えトマトの除去を徹底する。
- ◆**グレーシア乳剤**、**コルト顆粒水和剤**、**トランスフォームフロアブル**などを散布する。

すすかび病



被害葉 表(左)

裏(右)※

特徴

- ◆日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
- ◆近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、見分けることは困難。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、トリフミン水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤などを散布する。

きゅうり(施設抑制栽培)

うどんこ病



被害葉

特徴

- ◆日照不足、他の病気に比べやや乾燥した条件、過繁茂による風通しの悪さにより発生が助長される。

防除のポイント

- ◆QoI剤、SDHI剤は耐性菌が発生しやすいため、同一薬剤の連用は避け、1作1回程度の使用に留める。
- QoI剤の例：アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブル、フリントフロアブル25
- SDHI剤の例：アフェットフロアブル、パレード20フロアブル

- ◆葉裏から発生することもあるので、注意深く観察し、初発の段階で環境改善・防除を行う。
- ◆アミスターフロアブル、ストロビーフロアブルは浸透性を高める効果のある展着剤を加用すると、薬害が生じる恐れがあるため注意する。

炭そ病・褐斑病



炭そ病の被害葉

褐斑病の被害葉

特徴

- ◆窒素過多は発生を助長する。
- ◆いずれの病原菌も多湿下で、炭そ病は22度～24度、褐斑病は25度以上で発生しやすい。

防除のポイント

- ◆予防的にジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ベルコート水和剤などを散布する。
- ◆発生を認めたらアミスター20フロアブル、ゲッター水和剤などを散布する。

べと病



被害葉

特徴

- ◆肥切れは発生を助長する。
- ◆ハウス内の多湿、結露で多発しやすい。
- ◆多湿環境下の15～28度で感染し、最適温は20～25度である。

防除のポイント

- ◆予防的にジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ランマンフロアブルなどを散布する。
- ◆発生を認めたらベトファイター顆粒水和剤、リドミルゴールドMZなどを散布する。

あぶらな科野菜（キャベツ、こまつな、しろな等）

作物により登録内容が異なるので、ラベルの内容を必ず確認すること

根こぶ病



キャベツのしおれ症状と生育不良*

特徴

- ◆定植後1ヶ月頃から晴天の日中に葉がしおれるようになり、やがて葉色・生育が悪くなり、激しい場合には枯死する。

防除のポイント

- ◆あぶらな科野菜の連作を避ける。
- ◆早植えを避ける。
- ◆土壌pHが低い（酸性）と発生しやすいので、石灰質資材等を施用しpH7程度に調整する。
- ◆前年発生した畑では、キャベツ、はくさい、ブロッコリー、カリフラワーなどでは定植前に、非結球あぶらな科野菜類やかぶなどでは種前に、ネビリュウやオラクル粉剤を土壌混和する。
- ◆土壌水分が多いと発生しやすいので、多湿ほ場を避ける。

菌核病



キャベツでの発病

特徴

- ◆温暖、多雨により発生が助長される。

防除のポイント

- ◆菌核が土中に残って伝染源になるので、被害株は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆なばなやレタスなど、本病が発生しやすい作物との輪作を避ける。水田との輪作に防除効果がある。
- ◆キャベツやはくさい等で、発生が予想される場合は、結球開始期からベンレート水和剤、ロブラル水和剤などを予防的に散布する。

たまねぎ

べと病



べと病(苗における発病状況)*

特徴

- ◆ 苗床・定植後に、作物残さなどから感染し、越年罹病株として来年1～2月に病徴を現し、周辺への伝染源になる。

防除のポイント

- ◆ ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ダコニール1000、ランマンフロアブルを予防的に散布する。

野菜類・花き類全般

作物により登録内容が異なるので、ラベルの内容を必ず確認すること

アザミウマ類



キャベツを加害するネギアザミウマ※

特徴

- ◆ 成虫、幼虫ともに葉を吸汁加害し、カスリやテカリなどの被害が発生する。
- ◆ ネギアザミウマは、ねぎ類の害虫であるが、近年キャベツなどあぶらな科野菜での被害が増加している。
- ◆ ミナミキイロアザミウマは、きゅうり黄化えそ病などのウイルスを媒介する。

防除のポイント

- ◆ 周辺にねぎのほ場がある場合は、ネギアザミウマの飛来により被害が大きくなるため、注意する。
- ◆ 発生を認めたら、グレーシア乳剤（きゅうり、トマトなど）、スピノエース顆粒水和剤（キャベツ、きゅうりなど）、モスピラン顆粒水溶剤（キャベツ、きゅうりなど）を散布する。

アブラムシ類



キャベツを加害するアブラムシ類

特徴

- ◆ 葉裏に発生し、キャベツでは結球すると防除が難しくなり、品質が低下する。

防除のポイント

- ◆ ほ場をよく見回り、発生を認めたら、早期防除を行う。
- ◆ キャベツでは結球前の防除を徹底する。
- ◆ 薬剤が葉裏にも十分にかかるように丁寧に散布する。
- ◆ 発生を認めたら、モスピラン顆粒水溶剤（キャベツ、いちごなど）、コルト顆粒水和剤（キャベツ、トマトなど）、トランスフォームフロアブル（ブロッコリー、トマトなど）を散布する。

● 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/>

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

シロイチモジヨトウ

6月26日発表の防除情報「シロイチモジヨトウに注意！」をご確認ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/R2nd/boujyoyouhou/R0206shiroichi%20.pdf>

ハスモンヨトウ



若齢幼虫※

特徴

- ◆さといも、なす科野菜、あぶらな科野菜など多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、**ディアナSC**（レタス、にんじん、しゅんぎく、ほうれんそうなど）、**コテツフロアブル**（レタス、さといも、ずいき、しゅんぎく、みつばなど）、**プレバソフロアブル5**（ピーマン、とうがらし類、レタス、ほうれんそうなど）、**プレオフロアブル**（にんじん、ごぼう、ほうれんそう、レタスなど）などを散布する。

オオタバコガ



幼虫

特徴

- ◆果実や茎などに食入し、食入孔のまわりに虫糞が確認されることが多い。

防除のポイント

- ◆食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が劣るため、捕殺等も含めて早めに対応する。
- ◆発生を認めたら、**プレオフロアブル**（トマト、ミニトマト、花き類など）、**アニキ乳剤**（トマト、ミニトマト、きくなど）などを散布する。